

地域の若者が地域を盛り上げる！

**高校生による
地域ビジネス創出構想について**

三重県南伊勢町

ソーシャル・ビジネス(SB)プロジェクト

2013年5月8日

多気町まちの宝創造特命監 岸川政之

今日、お伝えすること

1. 地域と学校との連携
2. 人口減少における地域の現状および課題
3. これからの地域の在り方
 - キーワード : 地域の宝の創造
 - キーワード : 人口減に対応する地域
 - キーワード : 主観と客観のバランス
4. 南伊勢『ソーシャル・ビジネス プロジェクト(SBP)』
について

1. 地域と学校との連携について

● 三重県 多気町と相可高校



食物調理科

- 高校生レストラン「まごの店」(2003.10)
- 商品開発 (伊勢いも入り手延べ半生めん「とろろ麺」、醤油、ドレッシングなど)



生産経済科

- 伊勢いも栽培実験
- 宇宙大豆の栽培
- ハンドジェルなどの化粧品開発

高校生全国“S”の交流フェア(2013.9.23～28)

- 高校生世界料理コンクール
- 全国高校生“S”セレクション

北海道 三笠市と三笠市立三笠高校

2009年、北海道立三笠高校の廃校が2012.3.31に決定

- ・普通科1クラス40人定員 15名程度の応募
- ・偏差値33、あまり行きたくない高校であった



三笠市教育委員会が三重県多気町に視察訪問

- ・2009.3下旬、視察訪問をうけ、交流が始まる。



三笠市で「高校生とまちづくり」に関して講演、市立運営化へ

- ・2010.7.26 三笠市主催のまちづくり講演会(岸川)
- ・2010.9.24 道立三笠高校の市立運営化を決定
普通科を相可高校をモデルに「食物調理科」へ



三笠市立三笠高校 開校

- ・2012.4.1 三笠市立三笠高校 開校
競争倍率2.4倍、北海道一の志望倍率へ
- ・2012.8.31 三笠高校で授業(岸川)



2012.8.31 新1年生40名に授業

沖縄県 宮古島市と高校の連携

宮古島の現状

- ・毎年、高校生(約1800人)が卒業する4月に人口が減る
進学、就職で島を出てしまうため
反面、戻ってくる若者も多い



高校生を対象としたキャリア教育フォーラム開催

- ・2012.8.13 午後と夕方2回、宮古島市主催の高校生対象
キャリア教育フォーラム開催(岸川)
(参考)沖縄県立宮古島高校(840人)、伊良部高校(152人)
宮古工業高校(277人)、宮古総合実業高校(514人)



宮古島「高校生仕事クラブ」を設立

- ・地元高校生有志と宮古島市とのコラボで、市内の公設市場
内に高校生カフェ「宮古島まごの店」の開店の検討を開始



三重県立南伊勢高校

- 2011年10月、南伊勢高校(1年生)を対象にキャリア教育として、多気町の取り組み(高校生レストラン「まごの店」、「まごジェル」など)を紹介



生徒たちは高い関心を示した！

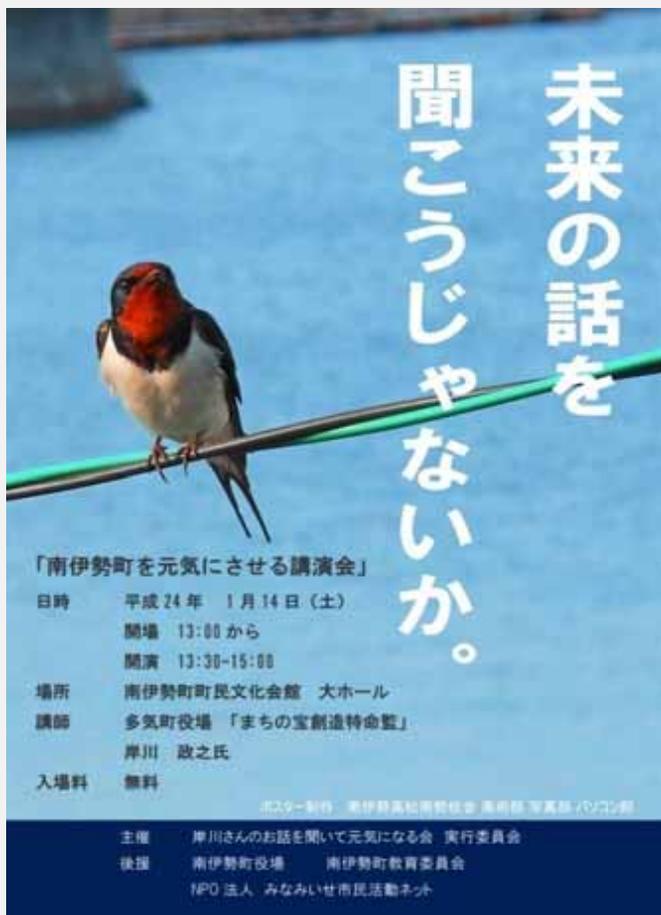
翌年2012年1月、生徒有志が講演会を企画立案

町の人にも自分たちが感動した話を聞いてもらいたい！

高校生の有志20名が、岸川の講演会を開催。

講演テーマ決定、ポスター制作、当日の受付、ロビーでの町民交流カフェなど
300名の町民を集め開催する。

そして、その後、放課後に「まちづくりを考えるクラブ」を立ち上げていく！



未来の話を
聞こうじゃないか。

「南伊勢町を元気にさせる講演会」

日時 平成24年 1月14日(土)
開場 13:00 から
開演 13:30-15:00

場所 南伊勢町民文化会館 大ホール

講師 多気町役場 「まちの宝創造特命監」
岸川 政之氏

入場料 無料

ポスター制作: 南伊勢高校南勢校生 高瀬 聖高 藤村 大輔

主催 岸川さんのお話を聞いて元気になる会 実行委員会
後援 南伊勢町役場 南伊勢町教育委員会
NPO 法人 みなみいせ市民活動ネット

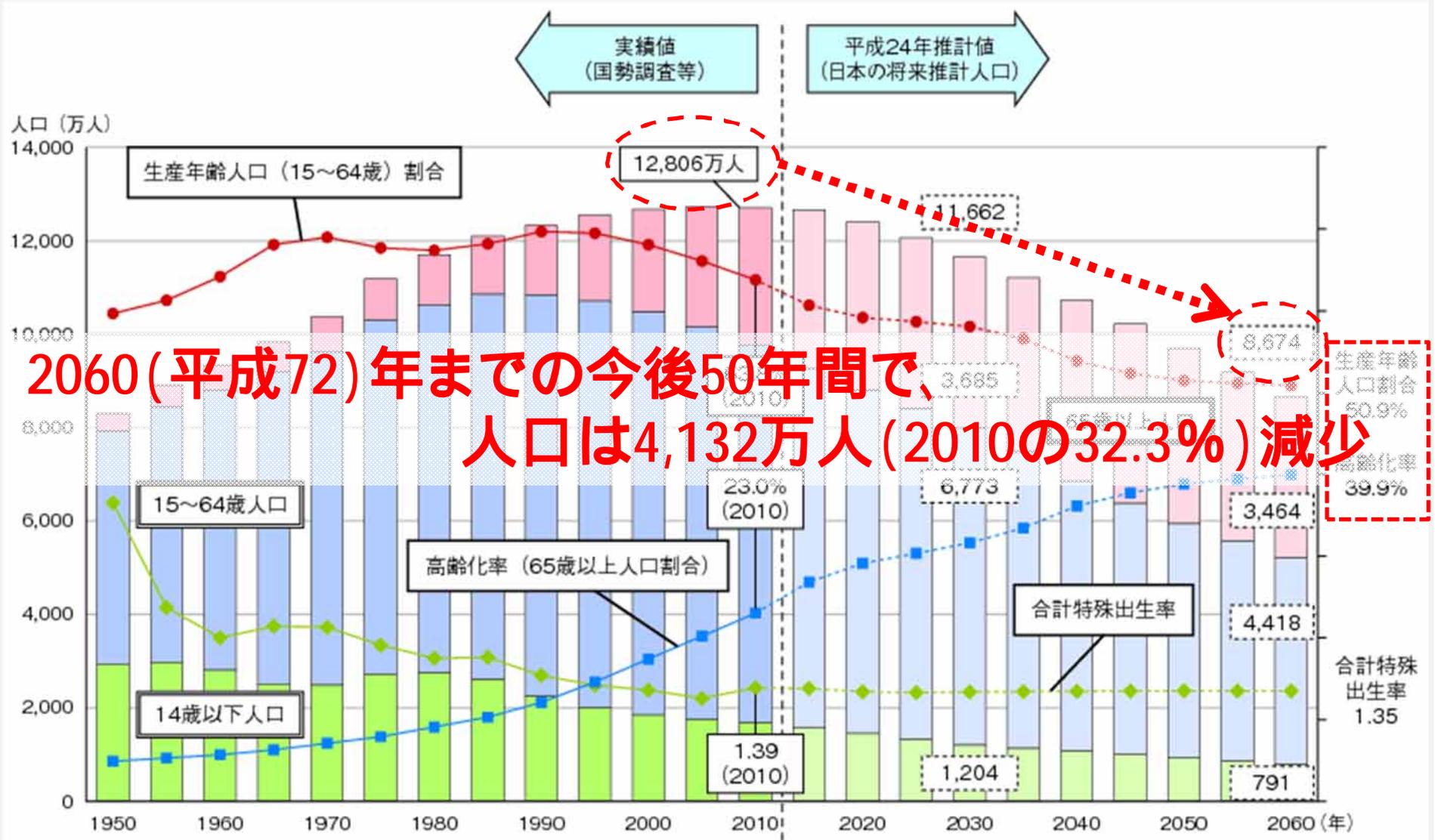


受付の様子

来場者に受け付け横の
ロビーで飲み物サービス
生徒が作ったポスター



2. 人口減少における地域の現状及び課題



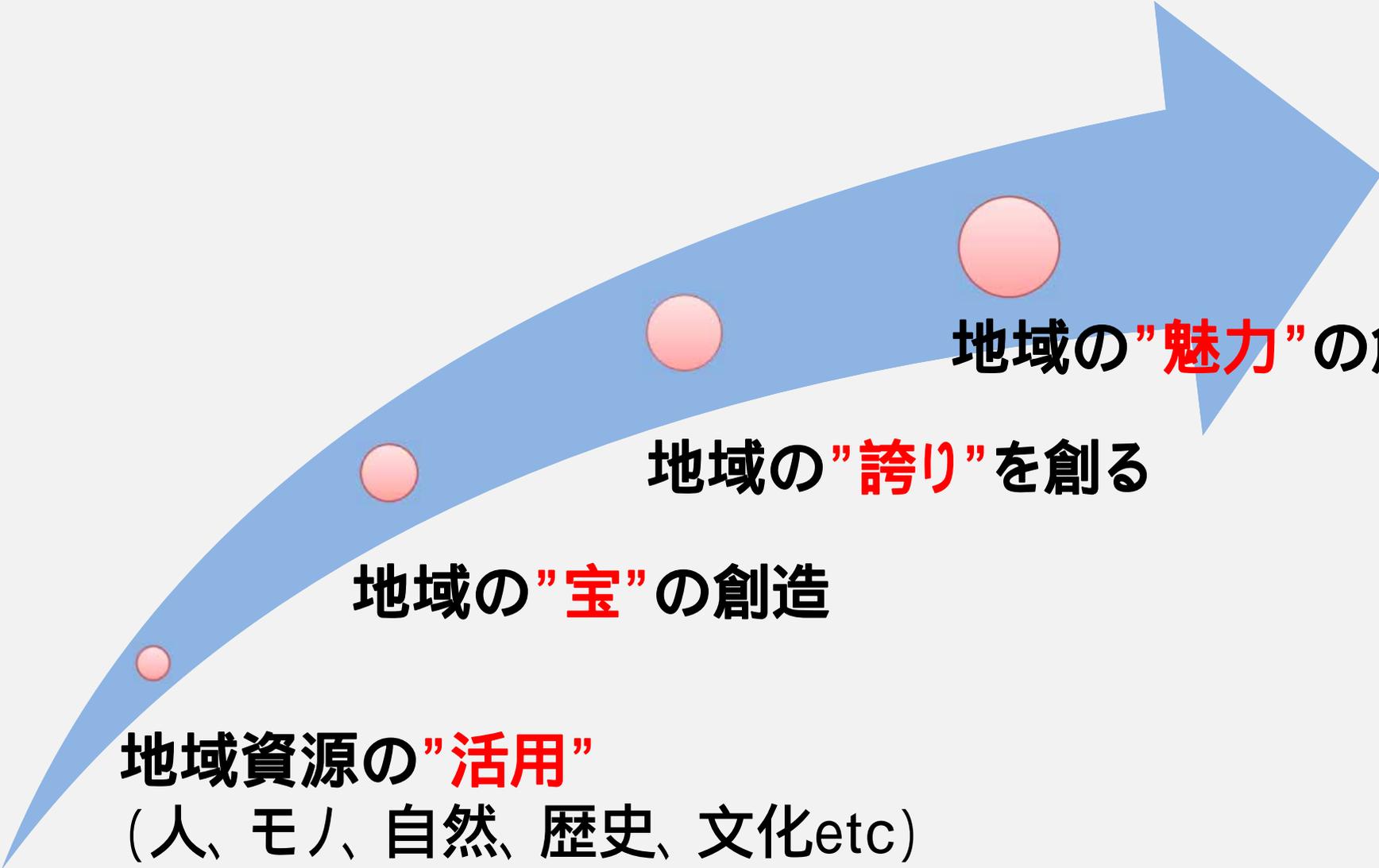
出所：総務省「国勢調査」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)：出生中位・死亡中位推計」(各年10月1日現在人口)、厚生労働省「人口動態統計」

南伊勢町の人口減少の実態

	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年
総人口	20,933	19,673	18,235	16,687	14,791	13,579	12,067	10,624	9,310
		これまで20年で、 6,142人(29.3%)減！				今後20年で、 さらに5,481人(37.1%)減！			
14歳以下 (年少人口)	3,207	2,821	2,367	1,814	1,300	1,010	820	694	615
		これまで20年で、 子供の人口は 1,907人(59.5%)減！				今後20年で、 子供の人口は 685人(52.7%)減！			
15歳以上 64歳以下 (生産年齢人口)	13,530	11,899	10,193	8,623	7,101	6,260	5,382	4,662	3,973
		生産年齢人口は 6,429人(47.5%)減！				生産年齢人口は 3,128人(44.1%)減！			
65歳以上 (高齢人口)	4,196	4,953	5,675	6,250	6,387	6,310	5,865	5,268	4,721
		高齢人口は 2,191人(52.2%)増！				高齢人口は 1,666人(26.1%)減！			
高齢化率	20.00%	25.20%	31.10%	37.50%	42.50%	46.50%	48.60%	49.60%	50.70%

出所：2010年までは国勢調査より、それ以降は、国立社会保障・人口問題研究所(2012)『日本の市区町村別将来推計人口(平成20年12月推計)』より

3. これからの地域の在り方



地域資源の**活用**

(人、モノ、自然、歴史、文化etc)

地域の**宝**の創造

地域の**誇り**を創る

地域の**魅力**の創造

人口減少社会に対応する地域

これまで(一般的対応)

- 住宅政策
- 企業誘致



- これらが実現しても根本的な問題解決が図られるわけではない
- 限界があり、日本全体を見た政策ではない

これから求められる対応

人口が減少するという事実を受け入れる
その上で、どうすれば地域のみんなが幸せになるかを
真剣に考える
つまり、人口減少社会に対応した
『新しい地域の幸せの価値観』をつくる

主観と客観のバランス

地域らしさ(もっと主観的に！)



1つの方法として…

ソーシャルビジネス
コミュニティビジネスの構築

4. 南伊勢『ソーシャル・ビジネス プロジェクト(SBP)』について

高校生による 地域ビジネス創出クラブ『設立

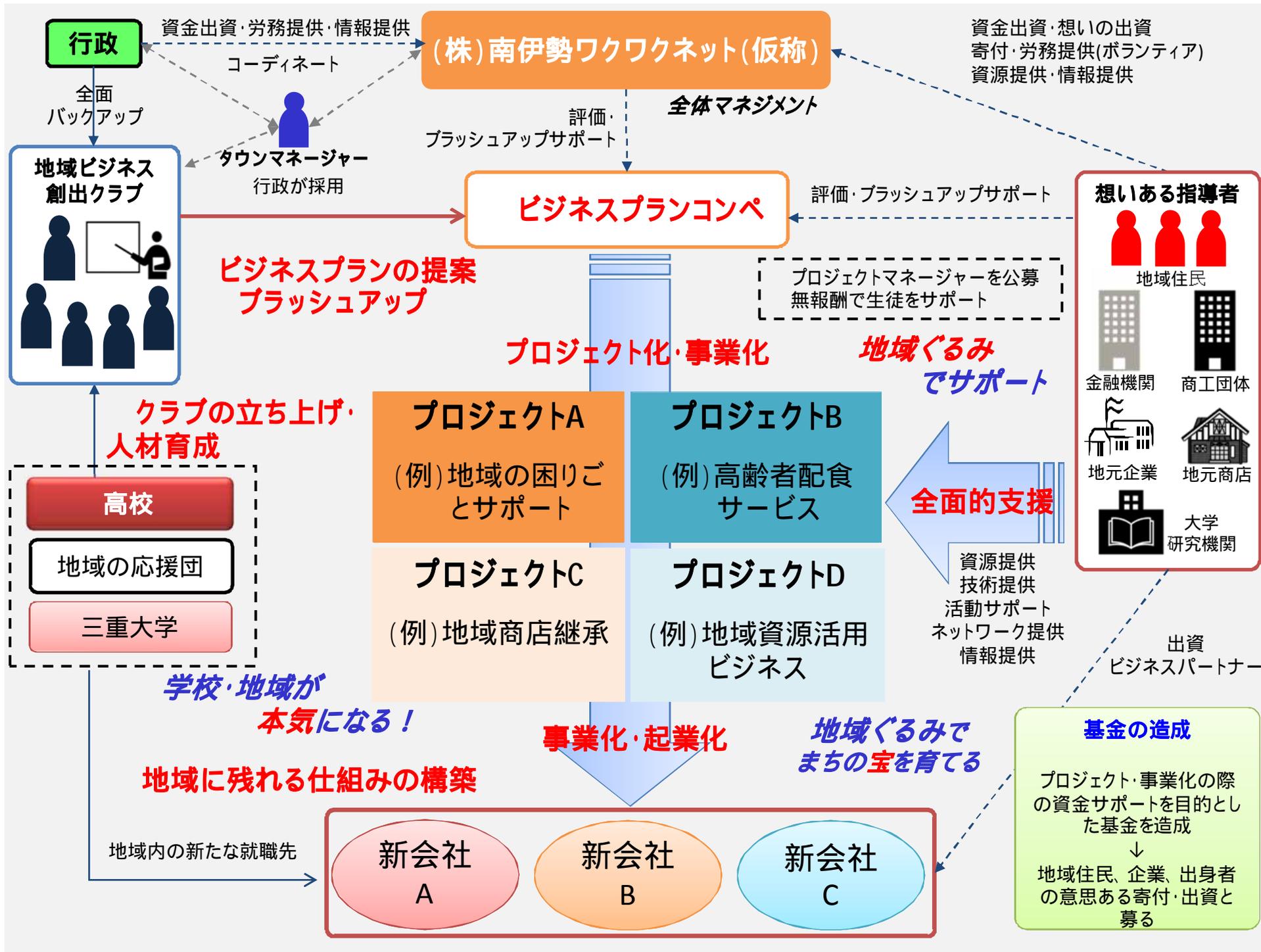
専門家のサポート
ビジネスプランの提案とブラッシュアップ

行政 金融機関 地元企業 地域住民が評価
ビジネスプランコンペの実施

行政 金融機関 地元企業 地域住民が全面支援
実現性のある事業をプロジェクト化

全面的支援
行政 金融機関 地元企業 地域住民が
プロジェクトの事業化 起業化

地域に若者が残れる仕組みの構築
高校生 行政 地元企業が成果を共有



見込まれる事業効果

行政

若者の地域定着

事業創出による雇用確保

若者の故郷への愛着心(郷土愛)の醸成

話題性

税収確保(起業等によるもの以外に、ふるさと納税なども見込めるかも?)

生徒

自分の地域をより一層知り、働く場づくりにチャレンジ

夢や目標を持って取り組める

地域おこしやビジネスといった切り口で、一流の大人たちと交流できる

地域に残り、働くことができる(例:新規or既存ビジネスの拡大)

企業

ビジネスチャンスの拡大、働き手の確保

インターンシップなどで、未来の働き手と関われる

全体

明るい話題の提供により地域にプラスの影響を与える

郷土愛の醸成

若者の地域定着

地域活性化

ご清聴

ありがとう

ございました！

Hプロジェクトin南伊勢町

(以下参考資料)

✓ 新たな組織を立ち上げ、運営

- Ex. (株)南伊勢ワクワクネット(仮称)

気持ちがワクワクする。希望が湧く。人氣が沸く。Work!(仕事)

✓ 株主:行政・金融機関・地元企業が出資

- 地域住民が応援(出資も含む)できる仕組み!

ポイント

思いのある指導者

- 情熱のある人を自分たちで歩いて探すという心意気(=学校現場だけに任せない)

学校側(現場)の理解

- 行政が騒いでいるだけではダメ!学校がその気にならなくては!

町のバックアップ

- 住民全員でまちの宝を育てるという思い

生徒への責任(覚悟) インセンティブ ~ 就職など

- 町あげて、卒業後の就職先を100%確保する

高校生が故郷を愛する気持ちを持ち、地域資源を活用したビジネスを研究するクラブを南伊勢高校南勢校舎で立ち上げる

目的：地元を盛り上げながら、生きていく。生活と地域貢献。

つまり、地域のためになる会社。

Ex.地元学の応用、徹底した地域研究、専門家を招いての
学習機会の拡大

高校生からビジネスプランが提案されたとき、その可能性について専門家がサポートする

大 学：研究開発サポート

経済界

産業界：現場サイドからの指導・助言、ビジネスマッチング、資金提供など

金融界

ビジネスプランコンペの実施

高校生が考えた地域ビジネスコンペの開催

専門家を交えた評価委員による事業評価

実現性はあるか？継続性はあるか？

既存の事業等に悪影響はないか？ など

実現性があると評価された事業の起業

行政の全面支援

- ・立ち上げ資金の援助
(例) 起業資金の無利子貸付

金融機関

- ・起業資金 & 運転資金の貸付、事業計画、返済計画の作成補助など

企業、一般、その他(町内外問わず)

- ・指定寄付、ふるさと納税、全国からの応援寄付



基金化(イメージは、起業への奨学金)

例えば……

地域企業創出基金より支出
(上限1,000万、事業費4/5以内)
償還方法: 利子免除で10年定額償還
5年以上継続できれば、その後の償還免除
(結果、2/5(40%) + 利子分 の補助)

情報発信

- ・広報誌での南伊勢高校の取り組みコーナーを設け、活動を報告
- ・ソーシャルメディアを活用した地域情報の発信など

見込まれる事業効果

行政

若者の地域定着

事業創出による雇用確保
若者の故郷への愛着心(郷土愛)
話題性
税収アップ

生徒

自分の地域をより一層知り、働く場づくりにチャレンジ

夢や目標を持って取り組める
地域おこしやビジネスといった切り口で、一流の大人たちと交流できる
地域に残り、働くことができる(例:新規or既存ビジネスの拡大)

企業

ビジネスチャンスの拡大、働き手の確保

インターンシップなどで、未来の働き手と関われる

全体

明るい話題の提供により地域にプラスの影響を与える

郷土愛の醸成
若者の地域定着
地域活性化

全国高校生 ”S”の交流フェア(案)

～ 学生の学生による学生のための祭典～

“ S ”とは・・・開催地の三重県多気町には、高校生レストラン「まごの店」を運営する相可高校食物調理科や企業との協働でハンドジェルなどのコスメ商品を開発し高い評価を得ている生産経済科があります。この企画は、その「食物調理科」「生産経済科」あるいは関連キーワードの「食」「生」「職」をローマ字にした時の頭文字の“ S ”をイメージしています。

またさらに、英語では「School」「Student」「Social Business」「Smile」「Sun」「Sustainable」「Skincare」「Soul」「Seed」「Super」「Sweets」など未来に続く素晴らしいことばもあります。

つまり、全国の高校生が“ S ”をキーワードに“ 取り組みを発表したり ”“ 開発した商品を紹介・販売したり ”しながら交流し、互いを評価しながら進化していくことを目的に行うフェアです。

『全国高校生“S”の交流フェア』

高校生“S”の交流フェアは下記の2つの事業より構成しております

高校生国際料理コンクール

2013.9.23(月)~28(土)

全国高校生“S”セレクション

2013.9.28(土)

全国高校生 “S” の交流フェア実行委員会

三重県立^{おうか}相可高校 食物調理科・生産経済科の生徒達と三重大学の学生により、
本フェアの企画、運営を行い、それを、三重県、多気町、相可高校、多気町商工会、
多気町工業会、多気町観光協会等が支えています。

協賛金等

企業・事業者の皆様

後援等

国、三重県、多気町、各種団体等

高校生国際料理コンクール

- ・大会概要 世界の高校生が、創作フランス料理コンクールを行う。
また、本大会において国際交流を深め、ホスピタリティあふれる人として成長する機会をあたえる。

テーマ 『肉』 (予定)

- ・期 日 平成 25 年 9 月 23 日 (月) ~ 28 日 (土)

- ・会 場 三重県立相可^{おうか}高等学校 (三重県多気郡多気町相可 5 0 番地)

- ・大会名 高校生国際料理コンクール
(THE INTERNATIONAL SECONDARY
SCHOOLS CULINARY CHALLENGE 2013)

- ・主 催 オーストラリア調理師連盟
(AUSTRALIAN CULINARY FEDERATION)

- ・共 催 全国高校生 “ S ” の交流フェア実行委員会

- ・参加予定国
台湾、ニューカレドニア、ニュージーランド、タヒチ、オーストラリア、
中国、香港、フィリピン、韓国、ベトナム、タイ、バヌアツ、フィジー、
シンガポール、日本

第1回 全国高校生“S”セレクション(案) 通称：Sセレクション

・Sセレクションの概要

全国の農業や食に関わる高校生を中心に、“取り組みを発表したり”、“開発した商品を紹介・販売したり”しながら交流し、互いを評価しながら進化していくことを目的に行うセレクションです。(ただし、評価については地域貢献の観点からも評価をし、順位を重視するのではなく、モンドセレクションのように商品や取り組みの完成度を評価します)。

そして、このセレクションを開催することにより、いろいろな取り組みを進める高校生同士が集まり、交流を深めて視野を広げてもらえればと考えています。

さらに25年度においては、海外の学生たちとも交流できるように、国際料理コンクールの最終日もからめて、多気町文化会館で本イベントを行います。

また、このフェアは毎年継続的に開催していく予定です。

- ・期 日 平成25年9月28日(土)
- ・会 場 三重県多気町民文化会館
- ・主 催 全国高校生“S”の交流フェア実行委員会
- ・参加者 全国の高等学校の生徒及び教職員、保護者、産業界、教育関係者、行政関係者

全国高校生“S”の交流フェア実行委員会事務局本部
(多気町役場産業環境課内) 担当：岸川・山口
三重県多気郡多気町相可1600番地 〒519-2181
電 話 0598-38-1118
FAX 0598-38-1140
メール norin@town.mie-taki.lg.jp